

平成27年度
九州食料・農業・農村情勢報告の概要

平成28年8月
九州農政局

平成27年度 九州食料・農業・農村情勢報告の構成

○トピックス編

◆27年度における九州食料・農業・農村のトピックス

○動向編

◆九州の食料・農業・農村をめぐる主な動き

第1章 九州農業の動向

第2章 食料自給率向上と食の安全の確保に向けた取組

第3章 農業の持続的発展に向けて

第4章 地域資源を活かした農村の振興・活性化

○巻末資料

◆農林水産祭参加表彰行事の農林水産大臣賞受賞者一覧

◆参考付表

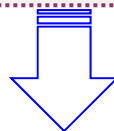
○トピックス編

27年度における九州食料・農業・農村のトピックス

- 1 熊本地震の被害状況と復興
- 2 日本産農水産物・食品輸出商談会inバンコク2015
- 3 茶の輸出促進のための病虫害防除について
- 4 次世代施設園芸「大分県九重町」の整備
- 5 加工・業務用野菜流通セミナー（九州ブロック）の開催
- 6 有限会社三清屋の「薩摩黒豚」が
フード・アクション・ニッポン アワード2015の大賞を受賞
- 7 国営緊急農地再編整備事業「駅館川地区」に着手
- 8 活発な火山活動と九州農業を直撃した台風被害
- 9 高千穂郷・椎葉山地域（宮崎県）が世界農業遺産に認定

1 熊本地震の被害状況と復興

- 4月14日（木）21時26分熊本地方の深さ11kmでマグニチュード6.5（最大震度7）
- 4月16日（土）01時25分熊本地方の深さ12kmでマグニチュード7.3（最大震度7）
- 4月14日以降、熊本県熊本地方、阿蘇地方、大分県中部の広範囲で、最大震度5弱以上が19回、震度1以上が1,944回発生（8月1日現在）。



- **農作物等**
メロン、トマトの落下、いちご、レタス、すいかの枯死、一番茶の収穫不能
- **畜産**
畜舎等施設の全壊、一部損壊、牛など家畜の死亡
道路事情による集乳不能、乳業工場の操業停止
- **共同利用施設**
野菜集出荷施設の破損、選果ライン停止
ライスセンター、カントリーエレベーターの破損
水稻育苗施設での苗枯死
- **農業用ハウス**
ハウスの傾斜・倒壊、施設内の配管損傷、加温施設の傾斜
- **農地・農業用施設**
法面の崩壊、農地の亀裂・沈下、液状化
ため池の堤体損傷、用排水路の損傷
海岸堤防のクラック、沈下
- **卸売市場**
卸売市場の一部破損

農林水産関係被害の概要

区 分	被害額(億円)
農作物等	349.7
農地・農業用施設関係	713.2
林野関係	395.4
水産関係	32.8
合計	1,491.2

7月28日12時00分現在



耕地の崩落



畜舎倒壊の被害



洋ランベンチ倒壊、灌水設備損壊による枯死

1 熊本地震の被害状況と復興（つづき）

◆ 九州農政局の支援

- ・被災市町村での支援物資の積み下ろしや仕分け作業
- ・JAグループとの炊き出し支援
- ・住家被害認定調査及び罹災証明書発行の窓口業務支援 等

◆ 営農再開に向けた支援

- ・農林水産省は、5月9日に第一弾、5月18日に第二弾の被災農林漁業者への支援対策を公表
- ・九州各県拠点の地方参事官室にホットラインを設置し、農業者等からの問合せに対応 等

平成28年熊本地震による被災農林漁業者への支援対策のポイント

- ・被災農業者向け経営体育成支援事業の発動
 - ①補助率の引上げ、
 - ②撤去費用に対する助成、
 - ③加工用施設等を対象に追加
- ・農林水産業共同利用施設等の再建・修繕に対する支援
- ・作物転換する際の種子・種苗の購入、農作業委託等に対する支援
- ・被災した畜産農家等の地域ぐるみでの営農再開、体質強化を進める取組に対する支援
- ・ため池等の災害の未然防止、小規模な水路補修、復旧と一体となり「創造的復興」にも資する大区画化に対する支援
- ・災害関連資金の特例措置の実施
(貸付限度額の引上げ、当初5年間無利子化)
- ・手作業による選果、他の集出荷施設等への輸送経費等への助成
- ・牛・豚マルキンの生産者積立金の納付免除、簡易畜舎の整備や家畜導入等に要する経費の助成
- ・被災農業者等の雇用支援 など



トラックの荷台からパレットへの積み替え作業



JAグループと協力して実施した炊き出しの支援作業



自治体職員と同行して、罹災証明書の発行に必要な住家被害認定調査

2 日本産農水産物・食品輸出商談会inバンコク2015

- 九州地域で生産された農水産物・食品のタイへの輸出拡大を図るため、九州農業成長産業化連携協議会は、平成27年9月17日に日本貿易振興機構(ジェトロ)が開催した商談会(日本産農水産物・食品輸出商談会inバンコク2015)に参加し、タイ側の多くのバイヤーと商談を行いました。

今回の商談会は、平成25年度の香港、26年度のシンガポールに続いて、アジアでの3回目の参加となりました。

- ◆ 日本から九州の19団体を含む39の出展者と、現地の輸入業者、卸売・小売業者、外食事業者のバイヤー等を合わせて232名の来場がありました。

- ◆ 現地のバイヤーも商品の特徴や価格等を熱心に聞き入っていました。
特に、多くのバイヤーが、タイの現地では生産できない日本産品に興味を示していました。



タイ(バンコク)での商談会の様子

3 茶の輸出促進のための病害虫防除について

本文P15~17

- 近年、海外で和食への関心が高まり、茶の輸出も増加しています。一方、輸出相手国では残留農薬基準値が定められているため、輸出向けの茶の生産に使用可能な農薬が限定されます。このため、茶の産地では輸出に向けて、相手国の残留農薬基準値への対応の取組がされています。

福岡県八女地域の取組

EUの残留農薬基準に適合した茶の生産技術の確立と普及のため、輸出用栽培防除暦や、栽培・加工マニュアルを作成。

平成22年度輸出用「福岡の八女茶」病害虫防除体系
玉露は山間地で一番茶のみ、煎茶は平地および山間地で二番茶までを確保

福岡県

月	旬	平地地					山間地									
		煎茶園					煎茶園					伝統本玉露園				
		基 補	農薬名	希釈 倍数	散布量 L/10a	摘採前 日数	基 補	農薬名	希釈 倍数	散布量 L/10a	摘採前 日数	基 補	農薬名	希釈 倍数	散布量 L/10a	摘採前 日数
2	上															
	中	□	オマイト	1,500	400	春期 萌芽前	□	オマイト	1,500	400	春期 萌芽前	□	オマイト	1,500	400	春期 萌芽前
3	上	■	パロック	2,000	400	14										
	中	□	アタックオイル	80	400	萌芽前 28	■	パロック	2,000	400	14	■	パロック	2,000	400	14
	下	アタックオイルは赤焼病の心配がないところで散布する					□	アタックオイル	80	400	萌芽前 28					
4	上	□	カスケード	4,000	300	7						□	コテツ	2,000	300	7
	中						□	カスケード	4,000	300	7					
	下															
5	上															
	中	□	スプラサイド	1,000	1,000	(21)										
	下	■	コテツ	2,000	300	7	□	スプラサイド	1,000	1,000	(21)	□	アブロードエース	1,000	1,000	14
6	上						■	コテツ	2,000	300	7					
	中															
	下															
7	上	■	キラップ スタークル	2,000 2,000	300	7						■	キラップ/バリアード インダー	2,000 5,000	300	7
	中	□	アブロードエース	1,000			1,000	14	□	アブロードエース	1,000	1,000	14			
	下	□	ダコニール	700	300	10										

資料: 輸出用茶の栽培暦

鹿児島県志布志市の取組

茶の最大の難防除害虫であるクワシロカイガラムシの幼虫の発生期が揃う第1世代に、スプリンクラーで散水し害虫の密度を抑制する節水散水法の技術や、高圧水風機、吸引機を利用した害虫の除去、天敵などの生物農薬、病害抵抗性品種の導入など、総合的病害虫・雑草管理による防除体系(IPM)の確立・導入で、アメリカなどの残留農薬基準値をクリアして輸出。



高圧水風防除機

4 次世代施設園芸「大分県九重町」の整備

- 大分県次世代施設園芸推進協議会(株式会社タカヒコアグロービジネス、大分県、九重町、実需者等)は、地熱エネルギー(泉源)が安定的に確保できる九重町野矢地区に、エネルギー供給から生産、出荷までを一気通貫して行うことのできる次世代施設園芸拠点を整備しています。

【次世代施設園芸大分拠点の概要】



◆本拠点は、地熱エネルギーを利用した温室と高度な環境制御により、パプリカの周年栽培を可能としています。

地場企業と地域生産者、行政が一体となり、栽培や地熱エネルギーを活かした大規模で持続可能な園芸生産団地での経営実践は、地域農業の発展に貢献するものとして期待されています。

◆現在、九州の2拠点(大分、宮崎)を含む全国10か所の次世代拠点の整備が進められています。

5 加工・業務用野菜流通セミナー（九州ブロック）の開催

- 加工・業務用野菜の国産シェア拡大を図っていくために、生産段階での安定供給、流通・加工段階での安定的な原材料確保、販売段階での消費者ニーズにあった商品開発を行っていくことが課題となっています。このため、九州農政局では、平成27年11月12日、加工・業務用野菜流通セミナーを開催し、生産者、流通業者、食品製造業者の方から事例発表をしていただきました。

◆ 生産段階 【農事組合法人TACやつしろ(熊本県八代市)】

生産者から見た加工・業務用野菜！ ～全てはお客様のために～

異常気象等による品質低下や欠品による外国産への転換に対して、ハウス栽培やトンネル栽培の徹底により、お客様の期待に応えた農産物の安定供給に努めています。



レタスのハウス栽培

◆ 流通・加工段階 【西日本フレッシュフーズ株式会社(熊本県益城町)】

売れる加工・業務用野菜！ ～今こんな野菜が人気No.1～

カット野菜の原材料は、自社農園と地元農家との契約栽培を中心に確保しており、まさに「地元づくし」の原材料確保に努めています。



一次加工品



加工・業務用野菜流通セミナー

◆ 販売段階 【株式会社サラダクラブ(佐賀県鳥栖市)】

食品製造業者としての課題！ ～課題・克服・その秘訣とは～

カット野菜のパッケージにメニューの提案やレシピを掲載。また、売場にパネルを展示するなど、野菜の新しい食べ方の提案を続けています。



量販店での販売風景

6 有限会社三清屋の「薩摩黒豚」が フード・アクション・ニッポン アワード2015の大賞を受賞

- 第7回フード・アクション・ニッポンアワード2015で、最高賞である大賞を、鹿児島県鹿屋市の有限会社三清屋の「薩摩黒豚」が受賞しました。



表彰式の様子(前列中央が(有)三清屋の田中社長ご夫妻)

◆「フード・アクション・ニッポン アワード」とは、国産農林水産物の消費拡大に寄与する事業者・団体等の優れた取組を表彰し、受賞した取組を全国に発信することにより、事業者・団体等によるさらなる取組を促進することを目的として創設された表彰制度です。



薩摩黒豚と田中社長

◆(有)三清屋では、山林を開拓した、自然牧場(夢牧場)にバンガロー風の豚舎を建て、年間約350頭の薩摩黒豚を手間隙かけてじっくり8～9か月育て出荷しています。

餌には成長ホルモン剤や抗生物質などを一切使用せず、有機栽培作物や自家生産しているかんしょを自社で配合し与えています。また、豚舎内にはシラス土壌を敷きバイオ菌を散布して、ふん尿を自然分解・発酵させています。その堆肥は自家のかんしょの有機栽培に活用しています。このような環境保全型農業の取組や飼育方法が評価され、平成27年3月には黒豚として日本初の有機畜産物のJAS規格の認証を取得しました。

7 国営緊急農地再編整備事業「^{やっかんがわ}駅館川地区」に着手

- 駅館川地区は、昭和41(1966)年度～昭和55(1980)年度に国営総合農地開発事業により山林原野を開墾し、農地、農業水利施設等が整備されましたが、事業完了後約40年を経過し、老朽化に伴う農業水利施設の破損事故等が発生していたため、平成27年度から国営緊急農地再編整備事業として、区画整理及び農業用排水を一体的に整備することとなりました。

事業の概要

関係市町	大分県宇佐市
受益面積	区画整理:243ha 農業用排水:802ha
事業期間	平成27年度～平成34年度(予定)
事業費	120億円(平成25年度単価)
主要工事	区画整理:243ha 用水路工:6路線 L=31km 揚水機場(改修):5箇所

地域農業の新たな展開

◆ 駅館川地区は、大分県宇佐市の安心院盆地を中心とする中山間地域に位置し、醸造用ぶどう、茶等を栽培する農業生産法人が既に参入しています。また、地域資源を活用したぶどう栽培の農業体験や農家民泊などグリーン・ツーリズムの展開により都市と農村の交流を進めています。



醸造用ぶどう



茶園



安心院ワイン

8 活発な火山活動と九州農業を直撃した台風被害

- 鹿児島県屋久島町の口永良部島の新岳、鹿児島県の桜島、熊本県の阿蘇山は、活発な噴火活動が続いています。
- 平成27年8月、台風第15号が16年ぶりに熊本県に上陸しました。

◆口永良部島の新岳の噴火

昨年5月29日の爆発的噴火で噴火警戒レベルが全国初の5(避難)となり、屋久島へ全島避難しました。

この間、放牧中の牛の健康問題など、生産者の懸念はありましたが、全島避難の中、屋久島の共同牧場へ子牛の移動も行われ、生産者の経済的損失の一部が回避されました。



出典：口永良部島の火山活動解説資料
(平成27年5月)

◆台風第15号の襲来

平成27年8月24日、熊本県に16年ぶりに上陸した台風第15号は、最大瞬間風速が40m/sを超えた地域や、時間雨量が80mmを超えた地域もあり、野菜、果樹を中心とした農作物や園芸関係のビニールハウスなどの施設に被害をもたらしました。

特に収穫期と重なったくりやなしは、落果や傷果及び樹体損傷で大打撃を受けました。



花き施設 損壊
(熊本県甲佐町)



くり 枝折れ
(宮崎県国富町)



なし 落果
(福岡県行橋市)

9 高千穂郷・椎葉山地域（宮崎県）が世界農業遺産に認定

- 平成27年12月15日、FAO本部（ローマ）において開催された世界農業遺産（GIAHS）運営・科学合同委員会で、「高千穂郷・椎葉山地域」（宮崎県）が新たに世界農業遺産に認定されました。
- 高千穂郷・椎葉山地域は、険しい山々に囲まれた山間地で、平地が極めて少ない環境下において、森林からの水や有機物等の資源供給を巧みに利用した特徴的な農林業システムが形成されており、今回の世界農業遺産の認定は、山間地農林業複合システムを通じた森林保全管理が生み出す持続的な農林業が認められたものです。

◆伝統的な焼畑農業

森林の伐採後に下草を焼き払って耕地を作り、そば、ひえ、小豆、大豆等を4年程度栽培し、また20年から30年かけて森林に戻し地力を回復させた後、再び焼畑を行う循環的なシステム。



焼畑に播種する様子

◆日本有数の棚田農業を形成

500kmを超える山腹水路網と、1,800haを超える棚田が作られ、「日本の棚田百選」にも選ばれています。



総延長500kmを越す山腹水路網

◆生物多様性

適切な森林管理によって、数多くの希少種が生息しています。

◆木材生産としいたけ栽培

スギ・ヒノキの針葉樹林、しいたけ栽培用の落葉広葉樹林、天然林として残す照葉樹林を区分して植生。乾しいたけ生産量全国2位の宮崎県で、その過半数を生産する地域です。



しいたけのホダ場

◆農林業にまつわる伝統文化

山の神を祀り、農耕古神事、五穀豊穡などを願う「神楽」など農林業と結びついた貴重な民俗文化が伝承されています。



伝統文化「神楽」